

SUPER
FORMULA

STAGE

superformula.net

2019 Vol.1

INDEX

- 2019 出場ドライバー紹介 ②③
- 今大会の見どころ ②
- 千代勝正が語るコースガイド ③
- ショートインタビュー 松田次生 ④
- インフォメーション ④

Published JAPAN RACE PROMOTION, INC.
2-3-25 Kudan-minami Chiyoda-ku Tokyo

本紙への広告掲載のお問い合わせは —
株式会社 日本レースプロモーション
〒102-0074 東京都千代田区九段南2-3-25
☎03-3237-0131
<https://superformula.net>

JRP
Japan Race Promotion Inc.

INTERVIEW NO.1

TEAM MUGEN ドライバー

ダニエル ティクトウム

Daniel TICKTUM

「ほら、あれはフェラーリだよ。あっちはメルセデスだ。それから、あっちはね……」

両親と時折出かけたロンドンのレストラン。食事中、窓のそばに座った小さなダニエルは、いつも外を走り交う自動車の名前をすべて言い当てた。電気で動くオモチャのクルマがお気に入り。とにかく物心がつく前からタイヤが4つ付いた乗り物に夢中だった。それは同じようにクルマが大好きな父親りだったのだろう。5歳か6歳になった頃には、テレビでラリーやF1を見始める。そのうちにクルマだけではなくレースにも強い興味を持ち始めた。母国出身の型破りなスター、F1ドライバーのルイス・ハミルトンがヒーローだった。

その様子を見て、ある時、父の友人が勧めた。「そんなに好きなら、一度カートに乗ってみたらどうだい?」。そこで父子はイングランド南部、イーストボーンにあるレンタルカート場へと出かけた。当時ダニエルは7歳だったが、すぐに才能の煌めきを見せた。わずか数度通ううちに、彼はそのカート場のコースレコードを破って見せたのだ。

これをきっかけとして本格的にカートを開始。9歳になる頃からレースに出場し始めると、3年目にはイギリス国内の4選手権を総なめにした。その後、国際シリーズで活躍。ちょうどその頃、レッドブルの若手ドライバー育成プログラムの責任者であるヘルムート・マルコ博士から、ダニエルの父に1本の電話がかかってきた。ダニエルの父は、ロンドンでサービスアパートメント（日本でいうマンション）を開発して所有す

るなど、実業家としてある程度の成功を収めている。だが、だからと言って息子のレース活動費用をすべて自前で賄えるというわけではなかった。何しろダニエルの下にも3人の弟がいる。彼らの教育もきちんとやり遂げなければならないのだ。

そうした事情も含め、父はマルコ博士と腹を割って話した結果、ダニエルは「レッドブル・アスリート」としてMSAフォーミュラ（イギリスF4）に参戦を開始する。ただし、「レッドブル・ジュニアドライバー」に選ばれ、資金的にもさらに手厚いサポートを受けるには、初年度にタイトルを獲得しなければならないという条件がつけられた。

順調に成績を出していくダニエル。だが、タイトル争いも大詰めを迎えた頃、ライバルとの間で事件が発生。オープニングラップで直接のライバルと接触し、大きく順位を落としてしまう。その後、ダニエルはセーフティーカー走行中に前のクルマを次々抜いて、自分と接触したライバルのクルマを弾き飛ばしに行った。これにより2年間（2年目は執行猶予）のライセンス停止を言い渡されることに。そんな事態を引き起こしてしまうほど、ダニエルは「タイトルを取らなければという強大

なプレッシャーにさらされていた」のである。

スポーツ裁判所で判決を聞いたダニエルが、マルコ博士に報告の電話をすると、「ライセンスが戻ってきたら、また電話しておいで」と言われたが、もうレースは諦めなければならないかも知れない。しばらくダニエルは学校の勉強に専念した。

だが、次第に心の中にムクムクと湧いてきたのはレースへの情熱。テストすることは禁じられていなかったため、父とも相談して翌年ライセンスが戻ってきたらF3に出ようと計画を立て、小さなサーキットで練習を重ねた。そして1年後、ヨーロッパF3の最終戦にスポット参戦。さらにF3のマカオGPにも初挑戦した。こうした活動を見て、マルコ博士は彼を「レッドブル・ジュニア・ドライバー」に抜擢。初年度の2017年はユーロカップ・フォーミュラノー2.0に参戦し、シーズン終盤にはGP3にも出場。さらにマカオGPに2度目の挑戦を果たす。ここでダニエルは劇的な総合優勝を果たして見せた。トップ争いをしてきた2台が最終週の最終コーナーで接触したために、思いがけず手にした勝利でもあった。

そして昨年はヨーロッパF3選手権に初めての

フル参戦。シーズン中盤までにランキングトップに立つ。しかし後半戦に入るとミック・シューマッハーが逆転。いくらダニエルが頑張ってもシューマッハーを倒せなくなった。理由は分からない。だが自信を失うことはなかった。ドライバーとしての自分を証明する場はマカオGPと決めていた。そしてマカオではPP獲得からの完全勝利。F3最後のレースをパーフェクトな形で終えた。

そしてレッドブルから次にオファーされたのが、全日本スーパーフォーミュラへのフル参戦。2年前に参戦したピエール・ガスリーの日本での成長を見て、マルコ博士自らがこの話を進めた。ダニエルも「スーパーフォーミュラはF2（欧州におけるF1直下のレース）よりも速く、自分を磨くのに適したカテゴリー」だと感じている。ただし、初めてのビッグフォーミュラということで、GP2（現F2）タイトルを獲得してから来日したガスリーとは少し状況が違っている。それだけに「順位的な目標は立てていない。とにかくベストを尽くして成長していきたい」とダニエル。今年の彼が、どのような上昇カーブを描いて行くのかが目が離せない。

協力: TEAM MUGEN

Series Partner **HONDA TOYOTA**

Series Supporter **YOKOHAMA**

Promotion Partner **HITACHI**
Inspire the Next
日立オートモティブシステムズ

SONY
RX0

NIKKEI-ICHI
人気酒造

Broadcasting Partner

BSフジ

J SPORTS

2019 ENTRY LIST

全日本スーパーフォーミュラ選手権 エントリーリスト

DOCOMO TEAM DANDELION RACING

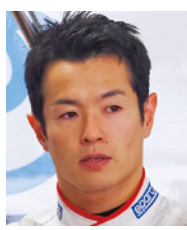
ドコモ・チーム・ダンディライオン・レーシング

1 山本尚貴
Naoki YAMAMOTO
1988年7月11日生 / 栃木県 日本




DOCOMO DANDELION M15 SF19

昨年の最終戦で劇的な逆転勝利で見事チャンピオンを獲得、2013年以来2度目の栄冠に輝いた。8年間に在籍したTEAM MUGENを離れ、新天地でもその実力が期待される。



<http://www.naoki-yamamoto.com>

HONDA



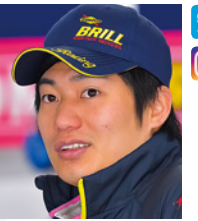
8 大嶋和也

Kazuya OSHIMA
1987年4月30日生 / 群馬県 日本




UOMO SUNOCO SF19

2011～12年にTEAM LEMANSに在籍し、2017年より再びチームに加入。名門復活へ向けてチームを牽引する。昨年は5位が最上位。さらなる躍進が期待される。



https://twitter.com/oshima_kazuya



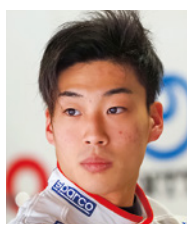
5 福住仁嶺

Nirei FUKUZUMI
1997年1月24日生 / 徳島県 日本




DOCOMO DANDELION MS5 SF19

スーパーフォーミュラには昨シーズンデビューしたが、F1直下のF2（全戦出場）とのかけもちだったため、フル参戦は今年が初めて。山本とともにチームを移籍した。



https://twitter.com/nirei_fukuzumi



TEAM MUGEN

チーム・ムゲン

15 ダニエル・ティクトゥム

Daniel TICKTUM
1999年6月8日 / イギリス 英国




TEAM MUGEN SF19

昨年はヨーロッパF3選手権に参戦し、ランキング2位を獲得。スーパーフォーミュラではTEAM MUGENからスポット参戦という形で2戦に出場し、今季はフル参戦する。



<https://danticktum.com>



KONDO RACING

コンドーレーシング

3 山下健太

Kenta YAMASHITA
1995年8月3日生 / 千葉県 日本




ORIENTALBIO KONDO SF19

2016年に全日本F3王者となり、翌2017年スーパーフォーミュラに進級。その年の第4戦もてぎでは初のポールポジションを獲得。昨年は第7戦で3位表彰台に立っている。



<http://kentayamashita.jp>



16 野尻智紀

Tomoki NOJIRI
1989年9月15日生 / 茨城県 日本




TEAM MUGEN SF19

デビューした2014年に初優勝し、一躍注目の存在に。2015年から毎年ポールポジションを獲得と速さも折り紙つき。5年間に在籍したチームから今季移籍。さらなる飛躍なるか。



https://twitter.com/tomoki_nojiri



4 国本雄資

Yuji KUNIMOTO
1990年9月12日生 / 神奈川県 日本




ORIENTALBIO KONDO SF19

2016年に初優勝を含む2勝を挙げて王座に就いた、現役では最年少のチャンピオン。デビューから8年間に在籍したセルモインギングを離れ、今季コンドーレーシングに移籍した。



<http://yujikunimoto.com>



REAL RACING

リアルレーシング

17 トリスタン・シャルパンティエ

Tristan CHARPENTIER
2000年8月12日生 / フランス 法国



REAL SF19

昨年まで2年間、イギリスF3に参戦し、2018年のランキングは12位。昨年12月のルーキーテストで、初めてスーパーフォーミュラを経験した。



<https://twitter.com/tristancharp>



UOMO SUNOCO TEAM LEMANS

ウオモスノコチームルマン

7 アーテム・マルケロフ

Artem MARKELOV
1994年9月10日生 / ロシア 俄罗斯



UOMO SUNOCO SF19

レーシングカートから、フォーミュラレースに進み、ドイツF3やGP2、F2で戦ってきた。F2では一昨年シリーズ2位。昨年は、ルノーF1のテストドライバーも務めた。



<http://amarkelov.com>



carrozzeria Team KCMG

カロツツェリア チーム ケーシーエムジー

18 小林可夢偉

Kamui KOBAYASHI
1986年9月13日生 / 兵庫県 日本




KCMG Elyse SF19

F1で活躍後、2015年にスーパーフォーミュラへ。優勝目まで行きながらまだ勝利はないが、今年こそ実現なるか。2016年からは世界耐久選手権（WEC）でも活躍している。



<http://www.kamui-kobayashi.com/>



ここに注目! 第1戦 鈴鹿サーキットの見どころ 新車、新人、新システムと話題の多い今季の初戦

昨年10月の最終戦から約半年。いよいよ今年も全日本スーパーフォーミュラ選手権が開幕するが、今季は例年以上に見どころが増えそうだ。

まず、最も大きな話題となっているのはニューシャシーSF19の導入。昨年まで使用していたSF14も世界で名を馳せたハイスペックマシンだったが、SF19はそこからさらに正常進化を遂げている。基本コンセプト「クイック&ライト」を踏襲した上で、トレンドとなっている空力デザイン

を取り入れているのがその特徴。FIA（世界自動車連盟）の最新安全規定も取り入れ、国内では初めてドライバー保護のためのHALO（ヘイロー）を採用した。

そのSF19では従来よりも20mm幅が広いフロントタイヤを装着することになったが、これがラップタイムの向上にも寄与すると見られている。まずは開幕戦の予選でニューマシンがどんなラップタイムを刻むのか。ポールポジションタイムが

どこまで伸びるのは注目のポイントだ。

またそのタイムを誰がマークするのかということも気になる。今季はドライバーのラインナップに大きな変化があったからだ。特にルーキードライバーの多さはここ近年になかった現象。F3マカオGPで2年連続優勝を果たし、近い将来F1のシートを掴むのではないかとされているダニエル・ティクトゥムを筆頭に、昨年全日本F3を圧倒的な勝率で制した坪井翔、一昨年の初来日時にF3で驚速ぶりを見せたアレックス・パロウ、昨年はF2で活躍した牧野任祐やアーテム

・マルケロフなど。高いポテンシャルを秘めたルーキーたちが、スーパーフォーミュラを戦いの場に選んだ。頂点を目指す彼らたちが、初の予選でどのポジションに来るのか期待がかかる。その若手の前に立ちはだかるのは誰なのか。それも見どころの一つだ。

そして決勝レースでは、トータルで100秒間使えることになったオーバーテイクシステム（1回使用した後は100秒間のインターバルあり）によって、どれだけポジション変化があるのかが注目。各チーム&ドライバーの作戦も見られるはずだ。

Team Pit — ピット割り

JSB1000	JSB1000	JSB1000	3/4	JSB1000	38/39	JSB1000	16/15	JSB1000	19/20	JSB1000	1/5	JSB1000	F3	36/37	7/8	JSB1000	64/65	F3	18	17	JSB1000	50/51																													
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52

<<< 1st Corner

Starting Grid — スタートグリッド 自分でGrid表を完成させよう!

2	No.	4	No.	6	No.	8	No.	10	No.	12	No.	14	No.	16	No.	18	No.	20	No.
1	No.	3	No.	5	No.	7	No.	9	No.	11	No.	13	No.	15	No.	17	No.	19	No.

ITOCHU ENEX TEAM IMPUL TOYOTA

イトチュウエネクス チーム インパル

19 関口雄飛 Yuhi SEKIGUCHI
1987年12月29日生/東京都

2018 RANKING
4



ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF19

スーパーフォーミュラにデビューした2016年に2勝し、翌年も2勝、昨年も1勝を挙げる活躍ながらまだタイトルはない。今年こそチャンピオン獲得なるか。



<https://twitter.com/yuhisekiguchi>

20 平川亮 Ryo HIRAKAWA
1994年3月7日生/広島県

2018 RANKING
5



ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF19

2013年に19歳でスーパーフォーミュラにデビュー。昨年2015年以来3年ぶりに復帰し、初のポールポジション、2度の表彰台と光る走りを見た。今季は初優勝が期待される。



<https://twitter.com/ryohirakawa>

VANTELIN TEAM TOM'S TOYOTA

バンテリン チーム トムス

36 中嶋一貴 Kazuki NAKAJIMA
1985年1月11日生/愛知県

2018 RANKING
6



VANTELIN KOWA TOM'S SF19

2012、14年のチャンピオン。父は元F1ドライバーでナカジマ・レーシングの中嶋悟監督。自身もかつてF1で活躍した。昨年のル・マン24時間レースでは優勝を遂げている。



<http://www.kazuki-nakajima.com/>

37 ニック・キャシディ Nick CASSIDY
1994年8月19日生/ニュージーランド

2018 RANKING
2



VANTELIN KOWA TOM'S SF19

2017年にスーパーフォーミュラにデビュー、昨年は初優勝し、最終戦までタイトルを争った。今季、コンドーレーシングより移籍し、新チームで再び王座獲得を目指す。



<https://twitter.com/nickcassidy>

JMS P.MU/CERUMO-INGING TOYOTA

ジェームス ピーエムコーセルモインギング

38 石浦宏明 Hiroaki ISHIURA
1981年4月23日生/東京都

2018 RANKING
3



JMS P.MU/CERUMO-INGING SF19

2015、17年のチャンピオン。現役では最年長ながら実力はトップレベルにあり、昨年も第5戦までで優勝し、最終戦までチャンピオンを争った。3度目の王座獲得を狙う。



<https://ameblo.jp/ishiura/>

39 坪井翔 Sho TSUBOI
1995年5月21日生/埼玉県



JMS P.MU/CERUMO-INGING SF19

昨年、圧倒的な速さと強さで全日本F3チャンピオンを獲得。高校生の時にフォーミュラレースに参戦し、2016年にF3へと進んだ。今季はスーパーGT500クラスにも昇格。注目の存在だ。



<http://xyz-one.jp/tsuboi/>

B-Max Racing with motopark HONDA

ビーマックス・レーシング ウィズ モトパーク

50 ルーカス・アウアー Lucas AUER
1994年9月11日生/オーストリア



Red Bull SF19

ドイツ&ヨーロッパF3を経て、DTM(ドイツツーリングカー選手権)で活動。今季、レッドブルの後押しで参戦する。元F1ドライバー、ゲルハルト・ベルガーの甥に当たる。



<https://twitter.com/lucasauer1>

51 ハリソン・ニューウェイ Harrison NEWEY
1998年7月25日生/イギリス



GOLDEX TAIROKU RACING SF19

ジュニアフォーミュラ、F3を経て、昨年はスポーツカーレースに参戦。今季、日本のレースに初参戦を果たす。父はレーシングカーデザイナーのエイドリアン・ニューウェイ。



<https://www.harrisonnewey.com>

TCS NAKAJIMA RACING HONDA

ティーシーエス・ナカジマ・レーシング

64 アレックス・パロウ Alex PALOU
1997年4月1日生/スペイン



TCS NAKAJIMA RACING SF19

2017年に全日本F3で鮮烈デビューし、年末のスーパーフォーミュラキーテストでも速さを見せた。昨年はユーロF3を戦ったが今季はスーパーフォーミュラに初参戦する。



<https://www.alexpalou.com>

65 牧野任祐 Tadasuke MAKINO
1997年6月28日生/大阪府



TCS NAKAJIMA RACING SF19

カート時代に頭角を現し、10代後半からフォーミュラレースに参戦。2016年に全日本F3へ。ユーロF3を経て昨年はFIA F2を戦い、日本人初のレース1優勝を果たした。



<http://team-tadasuke.com/>

千代勝正が語る鈴鹿サーキット

好みの観戦ポイントを見つけるのも楽しさ S字はセッティングの差が出やすい場所



SF19は走り初めからいきなり速くて、素直に走ると聞いています。限界が非常に高過ぎるということで、そこを探りながら走っているという話もドライバーたちからは聞きますね。

そのSF19ですが、この鈴鹿の1コーナーはほぼ全開。そこから2コーナーに向けて、ものすごい縦Gと横Gを感じながらブレーキングします。ダウンフォースが効いているので、かなり奥まで行けるといいますよ。

2コーナーではS字に向けてスピードを乗せて行くので立ち上がり重視。左フロントタイヤに力がかかって、アンダーステアが出やすい場所ということで、クルマが決まっているかどうかが見やすい場所でもあります。

S字は1つ目がほぼ全開。3つ目の速度を上げて

いきたいので、2つ目は少しアクセルオフして軽くブレーキに足を当てるかどうかなんですけど、その時に挙動の変化が起きやすいですね。S字は全体に空力バランスやセットアップの差が出やすいので、観戦ポイントとしてもオススメです。

続く逆バンクは、S字の勢いそのまま入りますが、次のダンロップ先の立ち上がりを考えて、出口はミドルスピードぐらい。路面のアンジュレーション(起伏)が難しく、アクセルワークに繊細さを求められますね。ダンロップは全開ギリギリのコーナーですし、セクター2のタイム差につながる場所です。

次のデグナーの1つ目は勇気の必要なコーナー。ダウンフォースとクルマを信じて度胸一発で入って行きます。2つ目は突っ込みがちになりますが、フルブレーキでしっかり止めることが大切。立ち上がりでリアが滑りやすいので、それをコントロ

ールしていきます。

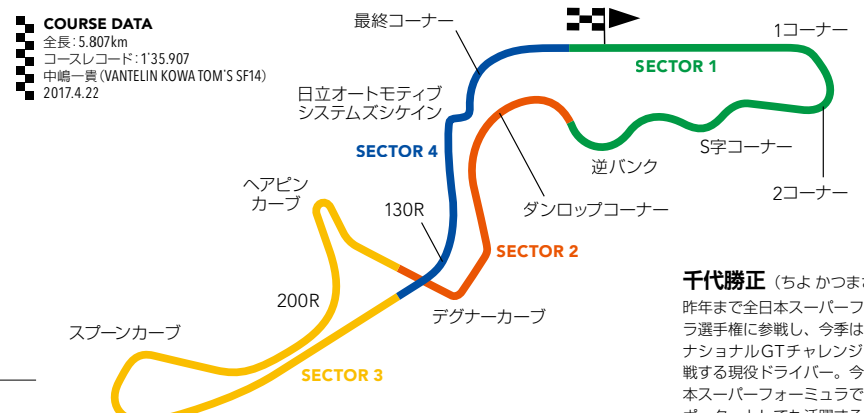
ヘアピンもフルブレーキですがフロントがロックしやすいですね。またレースでは出口で結構滑るので、トラクションをいかに上手にかけるかも重要です。ドライバーによってライン取りが違いますので、そこも見ていると興味深いですよ。

スプーンの1つ目は、デグナーの次に飛び込みスピードが高い場所。コース幅いっぱい使って進入していきます。2つ目に向けては旋回しながらのブレーキングが難しいですね。バックストレ

ートのスピードに直結するので立ち上がりはとても重要です。

130Rは全開。今ではコーナーではなくなってしまいました。そしてシケインですが、ここは色々な走り方がある場所。1つ目と2つ目の間で加速するかしないか、1つ目の縁石を使うか使わないかなど、ドライバーが工夫しやすいコーナーですし、セットアップ関係なくコンマ2~3秒縮められる場所です。開幕戦では、SF19でコースレコードが出るかどうか注目ですね。

COURSE DATA
全長:5.807km
コースレコード:1'35.907
中嶋一貴 (VANTELIN KOWA TOM'S SF14)
2017.4.22



千代勝正 (ちよかつまさ) 昨年まで全日本スーパーフォーミュラ選手権に参戦し、今季はインターナショナルGTチャレンジにフル参戦する現役ドライバー。今季は全日本スーパーフォーミュラでピットレポーターとしても活躍する。

過去3年の結果 (優勝者 | PP)

2018 Rd.1	山本尚貴 (TEAM MUGEN SF14)	山本尚貴 (TEAM MUGEN SF14)	2017 Rd.1	中嶋一貴 (VANTELIN KOWA TOM'S SF14)	中嶋一貴 (VANTELIN KOWA TOM'S SF14)	2016 Rd.1	山本尚貴 (TEAM 無限)	山本尚貴 (TEAM 無限)
-----------	------------------------	------------------------	-----------	---------------------------------	---------------------------------	-----------	----------------	----------------

SHORT INTERVIEW

Carrozeria Team KCMG監督
松田次生

まずは1勝。そこからいろいろと次へつながる

Q：今年KCMGの監督に就任した経緯を教えてください。

「去年の早い段階からお話をいただいていて、11月頃にお引き受けすることを決めました。僕自身、去年なかなか勝てなくて勝てなかった可憐選手を見ていましたし、お話をいただいた時、力になれればなと思ったんです」

Q：昨年ピットリポーターとして各チームをご覧になっていましたが、これからのKCMGにはどんなことが必要だと思っていましたか。

「去年、外から見ていてもクルマやドライバーのポテンシャルには全く問題ないレベルだったと思います。実際、トップ争いしている場面も多かったですし。ただムラがある部分もあったので、そこは僕がテコ入れできればいいのかなと思っています」

Q：現在も国内屈指のトップチームでGT500を走る現役ドライバーですが、そこでの経験でスーパーフォーミュラに役立てら

れる部分はありますか。

「それはありますね。他のチームもやっているかも知れませんが、ライバルチームのピット作業であったり、自分が外から見られる部分は見て、それを自分のチームに反映するとか。あと、ライバルのクルマの状況も、チームによってはピットロード出口で見えたりするんですけど、そういう部分は僕も気になるので歩き回ってチェックしています。KCMGは1台体制なので、周りとの比較という意味で、他の状況を知っておかなければいけないと思いますし、それをエンジニアに伝えることも大事かなと。それを伝えるだけでも、大きく変わると思っています。去年はなかなかそれをやれる人がいなかったと思うので、情報をしっかりチームに渡せればいいですね」

Q：これまでドライバーとして、様々な監督の下で走って来られたと思いますが、その中で参考にしている監督はいますか。どの監督の

まつだ・つぎお

1979年6月18日生まれ、三重県出身。スーパーフォーミュラで唯一2年連続チャンピオンを獲得するなどトップドライバーとして活躍し、今季からKCMGの監督に。ドライバーとして今季はスーパーGTに参戦しているほか、三重テレビのニュース情報番組「Mieライブ」でサブキャスターにも挑戦。



督のどんな部分を取り入れているでしょう。また、ライバルとして意識している監督はいますか。

「そうですね……。僕自身、星野監督（チームインパル）みたいに「いるだけで場の雰囲気が変わる」というタイプでもないの（笑）、僕は僕で違ったアプローチの監督ができればなと思っています。動き回る監督というか。僕がドライバーだった時に、情報だとか色々知りたいことがあったので、それを集めてどう可憐選手に伝えていっていったのは、

結構大事だと思っています。また、監督の中では、同じ時期に走ってきた本山さん（ピーマックス・レーシング監督）、立川さん（セルモ・インギング監督）、片岡くん（チーム・ルマン監督）には負けたくないなと思いますね。

Q：今季、監督としての目標は？

「まずは1勝して欲しいなと。そうすると、結構チームもドライバーも軌道に乗ってくれていると思いますし、チャンピオンにもつながっていくと思います」



観戦中の情報収集は

レースの状況を把握するなら……

公式アプリ

順位、ラップタイム、セクタータイム、位置情報などがひと目でわかる無料アプリ。場内放送も聞けて非常に便利！
<http://superformula.racelive.jp/>



リザルトやコメントを見るなら……

公式サイト

走行結果やインタビュー、その他リリースなど。随時最新情報を掲載！
<http://superformula.net>

リアルタイムな情報収集には……

Twitter

SUPER FORMULA公式アカウント @super_formula

TOYOTA GAZOO Racing @toyota_gr

HondaモータースポーツLive @hondajp_live

公式ハッシュタグは「#sformula」

記事やダイジェスト動画は……

Facebook

スーパーフォーミュラオフィシャルfacebook

<https://www.facebook.com/superformula.official>

YouTube

YouTube公式チャンネル

<https://www.youtube.com/user/superformulavideo>

SUPER FORMULA OFFICIAL SHOP

全日本スーパーフォーミュラ選手権 2018年総集編DVD発売中!

世界が注目する国内トップフォーミュラ、SF14ラストイヤーとなる激動の1年間を振り返る。2018年シーズンの全7戦をダイジェストで収録。完全保存版！

特典映像：SUPER FORMULA 2018 シーズンPV、SF19 デモラン（佐藤琢磨&中嶋一貴・ランデブー走行）

価格：5,400円(税込)



SUZUKA 2&4 RACE

公式プログラム販売中 価格：1,000円(税込)

GATE SHOP他鈴鹿サーキット各所で販売しています。



オフィシャルファンクラブ CLUB F 新規会員受付中!

年間パスの販売や各大会ごとのオリジナルチケット販売など、ファンクラブならではのサービスを予定! 詳しくは公式サイト(<https://superformula.net/sf2>)内のファンクラブページをご覧ください



TV放映/映像配信

BSフジ

BSフジ 決勝レース中継

『2019スーパーフォーミュラ選手権第1戦鈴鹿サーキット』

今年は昨年までの生放送から決勝レース当日の午後5時～6時55分という、より視聴者の多い時間帯での録画放送に変更し、レースの見どころ、ルール解説、レース終了時の総括、そして表彰式まで、決勝レースの全体像をキッチンと視聴者の皆様にご覧いただけます。実況はフジテレビでのモータースポーツ実況経験を持つ塩原恒夫が担当。解説には昨年に引き続き元レーシングドライバーの鈴木亜久里があたります。また現役ドライバーでもある千代勝正がピットリポーターを務めます。

○放送時間：4月21日(日) 午後5時00分～6時55分



BSフジ『スーパーフォーミュラ GO ON!』

スーパーフォーミュラの情報番組としてホットな話題を提供する「スーパーフォーミュラGO ON!」。今年は、国内外から多くの若手ルーキーなど注目ドライバーにフォーカスを当て、彼らにゆかりのある選手や監督をゲストに迎えてお送りします。番組の進行役は本田朋子アナ、ナレーターは乃木坂46の樋口日奈が担当します。

○放送時間：第2回 5月10日(金) 夜 11時00分～11時55分
5月12日(日) 深夜 2時00分～2時55分(再放送)

J SPORTS

全7戦の予選と決勝の模様をライブ中継。再放送やレースダイジェストも放送します。

○放送時間：4月20日(土) 午後3時30分～6時30分 J SPORTS4
4月21日(日) 午後1時30分～4時30分 J SPORTS4

GYAO!

大会終了10日後よりスーパーフォーミュラの決勝レースを全戦オンデマンドにて無料配信予定。

<http://gyao.yahoo.co.jp/sports/>

TIME SCHEDULE

タイムスケジュール

RACE	レース
4月20日(土)	
8:00- 8:20	N-ONE 予選
8:40- 9:10	JSB1000 A Gr. 予選
9:25- 9:55	JSB1000 B Gr. 予選
10:15-11:20	SUPER FORMULA フリー走行
11:40-12:10	F3 第1戦/2戦 予選
12:20-13:10	ピットウォーク
13:40-	N-ONE 決勝 [6Laps]
14:45-	JSB1000 Race1 決勝 [14Laps]
15:45-16:05	SUPER FORMULA 公式予選 (Q1)
16:15-16:22	SUPER FORMULA 公式予選 (Q2)
16:32-16:39	SUPER FORMULA 公式予選 (Q3)
17:00-17:30	キッズピットウォーク
4月21日(日)	
8:00- 8:15	JSB1000 フリー走行
8:35- 9:05	SUPER FORMULA フリー走行
9:50-	F3 第1戦 決勝 [12Laps]
11:00-	JSB1000 Race2 決勝 [18Laps]
12:05-12:55	ピットウォーク
14:00-	SUPER FORMULA 決勝 [43Laps or 90minutes]
16:25-	F3 第2戦 決勝 [17Laps]

※スケジュール、内容、出演者等は予告なく変更、中止になる場合があります。

EVENT

EVENT	イベント
4月20日(土)	
8:00- 8:10	オープニングステージ MC:多賀健晃、水村リア、笠原美香
8:10- 8:20	鈴鹿サーキットクイーンステージ MC:多賀健晃、水村リア、笠原美香
8:20- 8:40	くま吉ゲーム大会 MC:今井優杏
9:55-10:10	SFピギナーストーク 出演:YOKOHAMA promotional models MC:水村リア、笠原美香
11:30-11:55	NGKステージ
11:55-12:15	JSBライダートーク 出演:中須賀亮行選手、高橋巧選手、加賀山就臣選手、渡辺一馬選手 MC:多賀健晃
12:20-12:40	TGR SF若手監督トークショー 出演:立川祐路監督、片岡龍也監督 MC:今井優杏
12:50-13:05	SF予選直前トーク 出演:千代勝正 MC:水村リア、笠原美香
13:10-13:30	SFドライバートーク 出演:山本尚貴選手、ニック・キャンディ選手 MC:水村リア、笠原美香
13:30-13:50	TGR SFドライバートーク 出演:国本雄貴選手、坪井翔選手 MC:今井優杏
14:00-14:30	レースクイーンステージ 出演:各チームレースクイーン MC:水村リア、笠原美香
15:25-15:50	NGKステージ
17:00-17:20	テクノロジーラボラトリー 出演:両角岳彦、浅見理美 スペシャルゲスト(オープニングMC:水村リア)
4月21日(日)	
7:50- 8:00	オープニングステージ MC:多賀健晃、水村リア、笠原美香
8:00- 8:10	鈴鹿サーキットクイーンステージ MC:多賀健晃、水村リア、笠原美香
8:15- 8:30	SFピギナーストーク 出演:YOKOHAMA promotional models MC:水村リア、笠原美香
9:10- 9:40	レースクイーンステージ 出演:各チームレースクイーン MC:水村リア、笠原美香
9:50-10:15	NGKステージ
10:15-10:35	TGR SFドライバートーク 出演:中嶋一貴選手、小林可夢偉選手 MC:今井優杏
10:40-10:55	SFポールポジションドライバートーク 出演:ポールポジション獲得ドライバー MC:ピエール北川、水村リア、笠原美香
12:05-12:30	TGR SF監督トークショー 出演:館信秀監督、星野一義監督、近藤真彦監督 MC:今井優杏
12:30-12:45	SF決勝直前トーク 出演:千代勝正 MC:水村リア、笠原美香
13:05-13:25	JSB優勝ライダートーク 出演:JSB1000優勝ライダー MC:多賀健晃
13:25-13:50	NGKステージ
16:00-16:20	くま吉ゲーム大会 MC:今井優杏
16:20-16:40	テクノロジーラボラトリー 出演:優勝チームエンジニア、両角岳彦、浅見理美(オープニングMC:水村リア、笠原美香)
16:40-16:55	SF優勝ドライバートーク 出演:優勝ドライバー、千代勝正 MC:ピエール北川、水村リア、笠原美香